



知っている いきいき生活

シリーズ⑥

子どもの嘔吐等の対応

症状が持続・増強するかどうか、発熱・けいれん・意識障害・痛み等を伴っているかどうかを注意して診察します。嘔吐は軽症から重症・緊急を要する病気にまで幅が広い訴えです。

前者は下痢や軽度の脱水を伴い、水分の取り方や食事の工夫を丁寧に説明する必要があるもの等です。家庭看護では嘔吐後、少し間をおいてから少量・頻回に水分を与え、吐かなければ少しずつ1回量を増やしていきます。水分がとれるようになれば、油は避けて消化のよいものを食べさせます。

こどもは急に嘔吐したりする事が多く、その時は皆様心配されますよね。嘔吐は家庭でどのように水分を与えるのか、すぐに受診する目安は何かのポイントです。

のお腹を冷やさないもの（離乳後期食をイメージ）を食べさせてあげてください。

胃液の嘔吐の量が多い時は塩分の補給も必要です。おかゆに少し塩や梅干しを加えたり、味噌汁等も工夫してください。昔からの先人の知恵は、理にかなったものがたくさんあります。少量頻回の水分でも、吐くようなら点滴が必要かどうか判断します。

あるものとして、2歳以下の乳幼児の腸重積・重症の嘔吐下痢症や脱水症・虫垂炎等があります。どれも夜間診察した時には「翌日まで待つてはいけない」外来で帰してはいけない病気で、まず診断・除外診断をすべき病気で。



（耳原鳳クリニック小児科 岡本 裕広）

「いのちの平等」のために—必要な方に必要な治療を 広がる！みみはらの無料低額診療の輪



耳原鳳クリニック

10月末時点での実績は昨年度を超過しています。紹介経路はインターネット、役所や地域に加え、法人内の職員からです。支払いが遅れている人がいて「気になる」と現場から発信があり、無低診につながった例がありました。

総合病院や他の診療所の治療も受けられるケースでは、申請者の同意のもと負担軽減のため、院所間で情報を共有しています。また、法人内には、MSWが配置されていない診療所があり、鳳クリニックのMSWが連携する事で社会保障制度の必要性を共に検討できるメリットもあります。

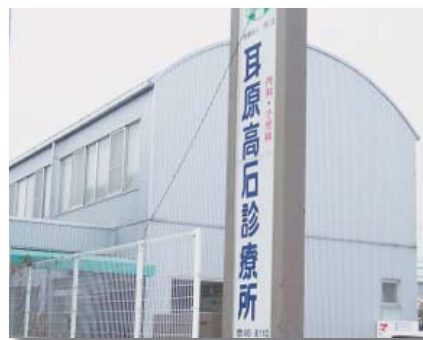
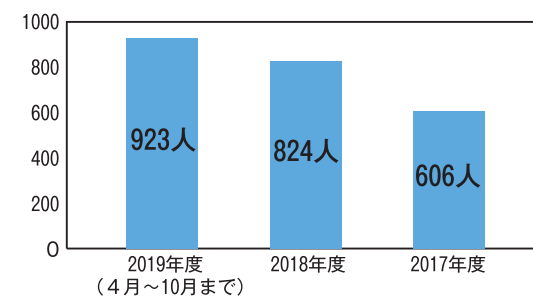
来年は、内外の連携に力を入れたいと思います。クリニックの全職員が一丸となって当事者の命を守る一助になれるよう相談にあたります。

（ソーシャルワーカー 戸田輝子・田中千賀）

同仁会は、だれもが平等に安心して医療が受けられるように、差額ベッド料を頂かない運営に加え、下記の施設で無料・低額診療（無低診）を実施しています。無料・低額診療とは経済的な理由によって必要な医療を受ける機会を制限されないように、無料または低額で医療を利用していただく社会福祉法に基づく制度です。同仁会は創立以来「いのちの平等」をかかげ、「無差別・平等」の医療を理念のひとつにかかげています。



無料低額診療延べ人数



耳原高石診療所

2019年6月28日より耳原高石診療所では「無料低額診療事業」を開始しました。11月末の時点で認定患者2件とまだまだ実績も特徴もない状況ですが、高石市で最初の「無料低額診療事業」実施事業所となったことで、より地域に必要とされる事業所をめざし、がんばっていききたいと思えます。

高石市では2018年度生保率（世帯）2.67%と決して高くないですが、短期保険証の発行は、2016.3月214世帯から2019.3月704世帯と3倍以上に増えています。生活保護受給に至らず、受診抑制を余儀なくされている方たちへの、情報の発信と収集に重点をおいた取り組みを、友の会と共同で進めていきたいと思えます。

（事務長 徳島直樹）

みみはらファミリークリニック



今年の11月までに1件の制度利用の申請があり、その1件を承認しました。また、4件の制度卒業があり、その内訳は3件の福祉制度の利用変更と1件の診療の終診でした。

数十件の問い合わせがありましたが、全てが当クリニックで対応できない疾患だったため、法人内の院所を紹介するにとどまっています。

地域住民の健康を守る、あるいは断らない医療のミッションを実践するために、今後も無低診の広報を続けていきますが、そもそもこの制度は一時的なものであって、国民健康保険料の引き下げや減免制度、生活保護基準の緩和といった制度上の改善が根本的な問題であるため、行政が主体になって動くよう、対市交渉等に協力していきます。

（事務長 石田圭史）

耳原歯科診療所



2018年度より現在のべ50件増えました。患者さんから、制度について問い合わせられることが、かなり増えました。ポスターの効果と、若い方はインターネットで検索し当診療所を知ったと、岸和田、西成、奈良など遠方から通院の方もいます。

引き続き、歯科医師、衛生士、事務の連携し、患者さんの背景も見て診療にあたるようにします。なかなか自分から言えない患者さんもおられると思うので、それをキャッチできるよう職員の見守りも育てたいです。

（事務長 三宅麻記）

耳原総合病院



昨年は若い職員も参加し、無料低額診療推進チームを立ち上げ、看板やポスターを設置、職員の学習会など周知活動を行いました。前年より適用件数は増え、医療費相談は後を絶ちません。無料低額診療事業は、経済的に困窮されている方の相談の入り口となっています。適切な社会保険制度を提案し、生活再建の一助となるよう努力しています。堺市で唯一無料低額診療事業を行っている地域医療支援病院として、地域の病院や診療所に当院の機能を最大限活用いただき、2020年度はさらに「健康の社会的決定要因(SDH)」※に目を向け、地域の健康に貢献できるよう取り組みます。

（推進チーム責任者 大島美生）



※「健康の社会的決定要因(SDH)」とは、社会格差、ストレス、幼少期、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通の10要因が、健康に影響を及ぼすと言われている。

みみはら高砂クリニック



2019年度は10月時点で延べ61人29万円（昨年度は71人24万円の減免）の減免をすることができました。耳原総合病院に入院、高砂クリニック外来で継続治療をする方が多いのが特徴です。

外来でも受付から声をかける、診察室で医師から紹介があるなど、職員の側にも取り組みが広がりました。保険を忘れた、検査はしたくないなど、なぜなのかと気づきの感度を高められるような取り組みをしていきたいと考えています。

【こんな事例も】

保険がないと言っていると受付から連絡があり、カルテを確認すると医師から無低をすすめるも拒否されていました。会計時に何気に「困ったことがあったら」と声掛けでやっと無低診を受け入れてもらいました。仕事の状況などを聞いて、診察を受けられる条件を整え、通院されるようになった患者さんがいます。受付・医師・看護師の連携で無低に結びつけた患者さんでした。

（事務長 山崎則子）

理事会報告

11月理事会（概要）

開催日時 2019年11月28日（木）

出席 理事23名

出席 監事2名

午後6時～

ちゅうごんのりくみ

・無料低額診療の各事業所実績

・10年度の経営結果報告

・協同基金推進委員会報告

・出席理事全員がこれを承認した。

◆協議・確認事項

・紹介状なき病院初診への選定療養費義務化への対応について継続して協議することとした。

・役員・評議員研修会の提案について出席理事全員がこれを承認した。

◆報告

・拡大常任理事会及び各種委員会概要

・健康友の会みみはら代表世話人会議、社保・平和・ま